仏国ストラスブール大学にノーベル賞受賞者を訪ねて

教授　大北 雅一

昨年 9 月、超分子化学の提唱者であり、1987 年ノーベル化学賞受賞者の Jean-Marie Lehn 教授を訪問した。筆者は 20 年ほど前、在外研究員および客員教授として、仏国ストラスブール大学にある Lehn 研に 1 年半ほど滞在した経験をもつ。5 年前に開催された Lehn 研 50 周年記念祝賀会を体調不良で欠席していたので、80 歳の誕生日を迎えるこの機会に伺うことを早くから決めていた。Lehn 教授は、現在も大学構内に建てられた超分子化学研究所の 5 階に研究室を構え研究活動を続けている。以前は、パリのコレージュ・ド・フランスにも研究室をもち、月に一回程度通っていたが、そちらの研究室は数年前に閉じたという。お互いの近況や共著論文の執筆方針について話した後、筆者の最近の研究内容を紹介した。非常に興味をもっていただき、3 時間ほどの討論時間があっという間に過ぎた。話をするほどに、Lehn 教授と筆者の研究に対する価値観が似ていると感じた。これは筆者を育ててくれた北海道大学の西田進也先生や辻孝先生の研究哲学が、Lehn 教授のものと似ているためだと思う。サラブレットの血統が脈々と続くように、名工大の研究室の学生達にも、そうした価値観を伝えていくことが大切だと感じた。その後 Lehn 教授から夕食の招待を受け、さらに 3 時間ほど Lehn 研在籍当時の思い出や仲間たちの近況について話し込んだ。スウェーデン王立科学アカデミーの Olof Ramström 教授は、2019 年のノーベル化学賞候補者推薦委員会の六人のメンバーに入っているという。一緒に酒を飲んで騒いでいた身近な友人が、そのような立場にあると聞いて驚いた。

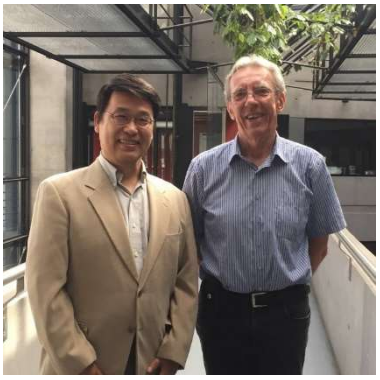
ストラスブール大学では、Jean-Pierre Sauvage 教授にもお会いしてきた。Sauvage 教授は、Lehn 教授の指導で博士号を取得した最初の学生である。独立後は、インターロック構造をもつカテナンや結び目の形をしたノットの効率的な合成法を開発するなど、超分子化学を基盤とした分子トポロジー科学を開拓し、カテナン構造の輪が電気的外部刺激によって回転する分子機械に関する先駆的研究が評価され 2016 年ノーベル化学賞を受賞している。Sauvage 教授とは、筆者が渡仏する直前のゴードン会議で一緒に食事をする機会があり、ストラスブールの生活などについて教えていただいたことが縁で交流が続いている。訪問当日は、エレベーターの前まで迎えに来てくれるほどの歓迎を受け恐縮した。前日までロシアの学会に呼ばれていたとのことで、今も精力的に活動している様子であった。印象的だったのは居室の狭かったことで、名工大の教員居室の半分ほどしかない。興味を持った論文のコピーが、卓上にきれいに並べてあった。既に研究活動は終えているが、知的好奇心はまだまだ健在のご様子である。

日本学術振興会（JSPS）は、日仏学術交流の拠点としてストラスブールに支部を置いている。現在センター長を務めているのは Lehn 研最初の日本人ポスドクで筆者とも親交のある西郷和彦先生（東京大学名誉教授）とお聞きして、急遽、表敬訪問させていただいた。パリ出張当日の忙しい中、温かくお迎えいただき話を伺っていると、11 月に開催するフッ素化学フォーラムのコーディネーターを名工大の柴田先生に依頼するとのこと。世間の狭さを改めて感じた。

初代 JSPS ストラスブールセンター長を務めておられたのは、Lehn 教授が学生時代に師事した Guy Ourisson 教授の研究室を引き継いだ中谷陽一教授である。筆者が留学中、国際人としての心得や人脈の作り方を教わった恩師でもある。来仏してきた多くの日本人研究者の対応に関わらせていただいたのは貴重な経験で、例えば当時、筆者の運転でドイツの黒い森を案内して親交を深めた川合眞紀先生は、現在、日本化学会の会長を務めている。今回も中谷先生のご自宅に招待していただき、奥様の手料理とアルザスワインをご馳走になりながら、時が経つのも忘れ色々な話を伺った。現在も日仏大学会館でストラスブール大学協約教授として日仏学術交流に尽力されているという。2019 年春の叙勲で Lehn 教授が旭日重光章を受章されたが、その書類は予想通り中谷先生が用意されたとのこと。留学当時から、研究に関しては Lehn 教授から、組織の運営は中谷先生から学んだことが多いと思う。何らかの形で恩返しできればと考えている。

今回のストラスブール訪問費用の一部は同窓会緑会から援助を頂いた。ここに厚くお礼申し上げます。今回訪問した方達が将来名工大を訪れる機会をもつなどして、筆者が名工大の発展に少しでも寄与できれば幸甚である。

Jean-Marie Lehn 先生



Jean-Pierre Sauvage 先生

西郷和彦先生